

老兵は死なず (1943)

THE LIFE AND DEATH OF COLONEL BLIMP
COLONEL BRIMP

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스 戦争

製作国 イギリス

色彩 Color

時間 130分

初公開日 1952/05/10

公開情報 B C F C = N C C

【解説】

正義感の強い男クライブの軍人としての半生を中心に、ナチズムに対する批判を描いたドラマ。ベルリン滞在の家庭教師エディスの投書で、英国の中傷デマを言いふらす元捕虜をこらしめようと彼の地に向かったクライブ中尉（リヴセイ）は、ドイツ帝国陸軍全員を敵に回して啖呵を切り、有志の中から選抜されたテオ中尉と決闘せざるを得なくなった。ところがこれが相討ちで、二人とも顔に怪我をして入院。クライブの看護についてエディスが“かすがい”になって二人は友情を結ぶ。テオはエディスに夢中になり、彼女は彼と結婚してドイツに残る。これを祝福して帰国の途に着いたクライブだったが、エディスと別れようやく彼女を愛していたことに気づくのだった。時は過ぎ、1918年。第一次大戦に出征し、フランスの修道院の世話になったクライブ少将は、エディスに瓜二つの看護婦バーバラを見初め、僅かな情報を頼りにその故郷ヨークシャーに赴き、慈善パーティを開いて彼女を見つけ出し、結婚した。折しも、ドイツ敗戦でテオ中佐はイギリスの捕虜収容所にいた。クライブが会いに行くと顔をそむけるテオだったが、帰国が決まった時はやはり懐かしさに彼の顔を覗いてから帰ったのだった。そして、光陰は矢の如し、1939年の第二次大戦勃発時には、妻を亡くし息子がナチに入党し、祖国に何の未練もないテオは、妻の故郷イギリスへの亡命審査を受ける身の上だった……。

以降、やはり妻を亡くしテオを同居させたクライブの、軍を解雇されての民間軍事活動が30分に渡って展開されるが、これは何分にも戦時下ゆえの啓蒙的内容で全く興味を削がれる。山場はテオの反ナチ述解で、ウォルブルックの抑えた芝居が光る。この監督コンビらしい表現の工夫が見られ、感心したのは前段の決闘場面で、段取りを細やかに描写しつつ、いざ剣を交わすと俯瞰のカメラが引いて、雪の兵舎を箱庭的造型で見せ、ファンタジーの雰囲気自然に転換する所。初々しいカーの一人三役も、その演じ分けが見事だった。

【クレジット】

監督	マイケル・パウエル	Michael Powell
	エメリック・プレスバーガー	Emeric Pressburger
製作	マイケル・パウエル	Michael Powell
	エメリック・プレスバーガー	Emeric Pressburger
脚本	マイケル・パウエル	Michael Powell
	エメリック・プレスバーガー	Emeric Pressburger
撮影	ジョルジュ・ペリナル	Georges Perinal
編集	ジョン・シーボーン	John Seabourne
音楽	アラン・グレイ	Allan Gray
出演	アントン・ウォルブルック	Anton Walbrook
	デボラ・カー	Deborah Kerr
	ロジャー・リヴセイ	Roger Livesey

ローランド・カルヴァー	Roland Culver
デヴィッド・ウォード	David Ward
カール・ジャッフエ	Carl Jaffe
アルバート・リーヴェン	Albert Lieven